



若月忠男 議員

米政策見直しに係る 仁多米生産対策は

町長 全水田でコシヒカリが
つくれる取り組みを進める



問 少しでも多くの作付面積が確保され、本年の栽培面積436ヘクタールが耕作できるような対策と、奥出雲仁多米ブランドのさらなる確立の支援強化が大切ではないか。

答 国から県に示されている生産目標数値は、島根県全体で82トンであり、対前年比で35トンの減、面積に換算すると、県全体で60ヘクタールの減ということが既に発表されている。各市町村への数値目標は県全体で調整しており、今月中旬あたりに正式に発表され、その数字を見ながら、町として県にどういう対応をするかよく検討したい。耕作放棄地等は絶対に出さないという決意のもと

で、県なり国に対応していく。

問 仁多米ブランド化の販売価格向上対策と、エコ米栽培の普及推進は。

答 ハデ干し米が話題にもなったが、自然環境と調和したおいしい米づくりと、エコ米栽培面積の拡大を図ることが必要。産地間競争が激化しており、本気での取り組みに対しての支援については、意見等を十分聞きながら、やっていきたい。集落協定の範囲についても、拡大してみんなで協働して取り組めるように促す。

問 鉄穴流し跡にできた棚田から生産される米も価値観がさらに高くなってくると思っており、その知的財産の登録等についての考えは。

答 仁多米の登録など、ブランド化の一つの財産登録のような考え方については、担当課でいろいろ検討しており、ブランド化あるいはPR化についてのさらなる検討を進めていく。

問 和食が世界無形文化遺産に登録されて、ご飯をおいしく食べることが一番だと言われている。学校給食等での和食のPR等についての考えは。

答 世界中で日本食が大変話題になっている。日本食については久可アヴェリーヌトモコさんがマクロビオティックと云って、みそ、しょうゆ、漬物の日本食を世界中に普及させた人であり、我々の奥出雲町は、そうした日本食の原点の町であるということをもPRしていく。

問 文化的景観保存整備計画で、たたら製鉄については、奥出雲町だけではなく広域的な地域との連携を強化して、奥出雲町主導型のリーダーシップで取り組む考えは。

答 たたらは奥出雲だけではなく中国山地の兵庫県から広島県に至る間、砂鉄がとれて古代からたたら製鉄を営んできました。新見市や庄原市も関心が出ており今後どのように広がっていくか、この奥出雲町が本家本元で

あり、連携の仕方も結構難しく、今安来市と雲南市と奥出雲町2市1町でやっている。リーダーシップがどういふふうにとれるか、みんなで日本文明を育んできたたたら製鉄の本場だという意識を持ちながら協力を検討していく。

問 消費税増税に係わる取り組みと周知は。

答 一番大きなものは、上下水道の料金とが、公民館の使用料、各種手数料であり、今、担当課で関係条例の見直しの作業等を行っている。



国の重要文化的景観の指定を受ける町内の水田